

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
国際観光論 International Tourism		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	演習	選択	(観光ビジネス実務士必修科目)	全学生 観光フィールドの学生対象
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
トラベルコーディネート				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
地域観光論    トラベルコーディネート				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
伊藤優子	2階	水曜日・木曜日		授業中に指示します
授業の概要				
海外旅行をするうえで、世界各国の歴史的背景やその国の独特の文化、習慣とともに現在の民族問題、宗教問題などの知識、教養を学んでいく。海外に行くことは、その国のことを知ることも重要であるため、日本人に人気の国や地域の問題、課題を考える内容である。				
授業の目標				
①世界の歴史と紛争について今後どうすべきか考えることができるようにする。 ②世界の文化、習慣を日本と比較することができるようにする。 ③国際交流を各国の現状と比較しながら、どうしたらより良い関係が構築できるかを考え、提案できるようにする。 ④海外に行くのに必要な教養を身につけることができるようにする。				
授業の方法				
主に新聞記事などを活用し、講義形式で授業を進める。海外で起こる問題、事件などを事例を提示しながら、その国の現状を伝えていき、今後どうすべきなのかを考えていく。				
学習の成果（学習成果）				
①世界各国の歴史、宗教、民族における問題を考え、日本が将来に示すべき対応、姿勢を提案することができる。 ②世界の習慣、文化、現在抱える問題などを日本と比較し、世界各国の良さ、不足点と日本の良さや不足点を改めて考えることができる。 ③世界のことを学び、基礎的教養を身につけることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	現在の海外情勢    宗教を知る			
第2回目	スペインの歴史と文化			
第3回目	スペインの現状と課題			
第4回目	イタリア・フランスの歴史と文化    現状を知る			
第5回目	ドイツの歴史と文化    現状と課題			
第6回目	イギリス・スイスの歴史と文化    現状と課題			

第7回目	ロシア・中欧の現状と課題	
第8回目	旧ユーゴスラビアの現状と課題	
第9回目	インドの歴史と文化 インドとパキスタンの現状	
第10回目	カンボジアの歴史と現状	
第11回目	タイの歴史と現状	
第12回目	他のアジア諸国の歴史と現状	
第13回目	アメリカの歴史と文化	
第14回目	アメリカの現状と課題	
第15回目	その他世界各国の現状と課題	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	授業に集中し、ノートをとる。不明なことがあれば積極的に質問する。自分の意見を述べるなどが評価の対象となる。S評価の基準：上記参加態度を全て満たすもの。
レポート	10%	課題を出されたら期限内に提出する。S評価の基準：課題の本質と学習成果が十分にまとめられている。S=90-100
調査報告書		
小テスト		
試験	60%	海外の歴史、文化、習慣などグローバルな視点を持つことができるかどうかの評価の基準となる。S評価の基準：S=90-100
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
プリントで対応		
履修上の留意点・ルール		
遅刻厳禁。私語は慎むこと。授業途中で無断で退出禁止。携帯電話の使用禁止。飲食厳禁。		